

## 令和6年度 第2回吉田町総合計画等審議会（議事録）

### 1. 開催日時

令和6年10月17日（木）14:00～16:37

### 2. 開催場所

吉田町役場2階 町民ホール

### 3. 出席者

| 氏 名    | 役 職 等                   | 備 考    |
|--------|-------------------------|--------|
| 中村 成宏  | 吉田町教育委員会委員              |        |
| 福世 隆二  | 吉田町商工会副会長               | 代理出席   |
| 中根 恭巳  | ハイナン農業協同組合吉田支店長         | 代理出席   |
| 松浦 光紀  | 南駿河湾漁業協同組合常務理事・吉田支所担当理事 |        |
| 武田 高明  | 静岡うなぎ漁業協同組合専務理事         | 代理出席   |
| 田島 逸雄  | 吉田町社会福祉協議会長             |        |
| 岩根 政次  | 吉田町さわやかクラブ連合会長          |        |
| 田中 啓   | 静岡文化芸術大学教授              | 会長     |
| 加藤 昭   | (株)静岡銀行吉田支店長            |        |
| 横田 渉   | 島田掛川信用金庫吉田支店長           |        |
| 飯田 千恵子 | (株)FM 島田放送番組審議会委員       |        |
| 鈴木 佐知子 | 特別養護老人ホーム片岡杉の子園施設長      |        |
| 澤野 康之  | 島田公共職業安定所長              |        |
| 吉良 光陽  | 静岡県中部地域局長               | オブザーバー |

（敬称略）

※ 大石千恵子委員、黒田康弘委員、松浦祐之委員、桐田不二雄委員、白石寿一委員、松浦セツ子委員、小川政徳委員が欠席。

#### 4. 副町長あいさつ

- ・本日、町長については、自治会の視察研修のため欠席になります。なお、各自治会長についても欠席となりますが、事前に事務局から本日の議事について、説明をしている。
- ・日曜日に大相撲遠州吉田場所が開催され、総合体育館に3,400人を超える方が来場した。初めてのイベントで、非常に参考になった部分が多く、賑わいのあるまちづくりの参考にしていきたい。
- ・本日は、第5次総合計画と第2期総合戦略の評価、次期総合戦略の策定に関する審議になるので、委員の皆様からの御意見をいただきたい。

#### 5. 委嘱状の交付

令和6年10月1日付けの吉田町教育委員の構成の変更により、学校教育課から委員の推薦があったため、新たに委員の委嘱を行う。

なお、委員の任期は、吉田町総合計画等審議会条例第5条第1項に基づき、前任者の残任期間（令和8年3月31日）までとする。

本来であれば、町長から委嘱状の交付をして委員になっていただくが、時間の都合上、委嘱状は机の上に置く形で委嘱をさせていただく。

#### 6. 自己紹介

10月1日付けで新しく委員となった中村委員より自己紹介を行った。

#### 7. 会長あいさつ

田中会長よりあいさつ。

#### 8. 議事

##### 8.1. 第5次吉田町総合計画後期基本計画総括評価報告書について

事務局より、「資料No.1 第5次吉田町総合計画後期基本計画総括評価報告書」及び「資料No.3 令和6年度 第1回総合計画等審議会における質疑に対する回答」について説明をした。

##### ● 【〇〇委員】

- ・この報告書は全町民に配布されるのか。

→【事務局】

- ・配布は考えていない。町ホームページで公表する予定。

##### ● 【〇〇委員】

- ・P.19水産業の分野の「漁業就業相談件数」について、「新規漁業就業希望者の就業につながるよう支援していく。」と記載されている。過去に県の予算で、就業支援を実施していたが、今後、町と

して、そういった支援を実施するという意味か。

→【事務局】

- ・過去に県で実施していた支援内容については回答できない。担当課としては、漁業の担い手不足が問題と考えており、担い手不足解消に向けて、新規漁業就業希望者の支援を実施したいと考えている。

→【〇〇委員】

- ・具体的な支援策があるのか。

→【事務局】

- ・現時点では決まっていない。

→【田中会長】

- ・「実施していく。」と記載しているので、具体的な支援を実施してほしい。

## 8.2. 第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果報告書について

事務局より、「資料No.2 第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果報告書」及び「資料No.3 令和6年度 第1回総合計画等審議会における質疑に対する回答」について説明をした。

### ● 【田中会長】

- ・P.21 魅力ある教育システムの構築と質の高い教育の充実の分野の「住民が幼児教育の充実に満足している割合」について、前回の審議会において調査対象者に関する質問をした。担当課としては、今後は、調査対象者や調査方法等について検討していくと回答しているが、次期総合戦略においてもこのKPIを位置づける予定か。

→【事務局】

- ・現時点において、次期総合戦略のKPIとしては位置づけられていない。

→【田中会長】

- ・第6次総合計画の指標には位置づけられているか。

→【事務局】

- ・第6次総合計画にも位置づけられていない。

### ● 【〇〇委員】

- ・P.12 外国人対応力の強化の分野の「案内看板（多言語化）の設置数（累計）」について、案内看板の設置は積極的に行われているように感じるが、既存の案内看板で文字の薄れや、破損しているものもみられるため、スケジュールを組んで点検等を実施してほしい。

→【事務局】

- ・了承。

### ● 【〇〇委員】

- ・資料No.1の各章における総括評価は非常にわかりやすいと思う。資料No.2についても同様の評価方法はしないのか。

→【事務局】

- ・資料No.1については、4年間の総括評価になるために記載している。資料No.2については、令和5年度の単年度の評価になる。来年度に総括評価を実施する際は、検討したい。

→【田中会長】

- ・単年度の評価についても、同様の記載の方がわかりやすいと思うので、事務局で検討してほしい。

→【事務局】

- ・了承。

### 8.3. 次期吉田町総合戦略骨子（案）について

事務局より「資料 No. 4 次期吉田町総合戦略骨子（案）」について説明をした。

#### ● 【田中会長】

- ・次期総合戦略のK P Iについて、一覧表はないか。

→【事務局】

- ・机上に配付させていただいた参考資料の右側の部分が次期総合戦略のK P Iの一覧になる。

→【田中会長】

- ・スケジュール的に第3回の審議会までには、素案が固まると思う。次回の審議会は骨子案の審議となっているが、完成度の高い骨子案について審議が必要である。

#### ● 【田中会長】

- ・なぜ、現行の総合戦略の改訂でなく、新たに総合戦略を策定するのか。

→【事務局】

- ・国において、従来のまち・ひと・しごと創生総合戦略からデジタル田園都市国家構想総合戦略に改訂している。総合戦略という基本路線は、東京の一極集中の打破や人口減少社会への対応と変わらないものであるが、そこにデジタルの視点を加えて取り組むため、新しく総合戦略を策定する。

→【田中会長】

- ・デジタルの視点を加えることで、計画の目指す視点が変わったということか。

→【事務局】

- ・5つの基本目標については、現行の総合戦略を継承しながら、デジタルの力を活用するという視点を新たに総合戦略に位置づけ、地域づくりを行っていきたいと考えている。

→【田中会長】

- ・デジタルを活用することは、方法論である。目指すべき姿が一緒であれば、同じ計画で、方法論の整理をすればいいと思う。今回は骨子案として審議をするが、私が考える骨子は、目的があって達成するためにどのような手段をとるかが先にきて、手段が明確になった時に、K P Iを決めていくものだと思っている。今回の計画は目標値ありきの計画になっていないか。計画を変えるなら、内容を一新する必要があると思うが、今回はそのような計画になっていない。

→【事務局】

- ・今年度で現行の総合戦略の期間が終了するため、新しく総合戦略を策定する。総合計画において、

第5次の大きな目標については第6次に継承している。総合戦略についても、5つの基本目標については継承し、デジタルの活用という視点を方法論として施策に示していきたいと考えている。

→【田中会長】

・了承。デジタルの活用という視点が新しい総合戦略の肝となるので、そこを中心に進めてください。

● 【〇〇委員】

・P.5の「人口の社会移動」について、基準値の113人は年間を通しての数値ということか。

→【事務局】

・こちらについては、総務省が毎年公表している「住民基本台帳人口移動報告年報」を出典元としている。引き続き、転入超過を目指していきたいと考え、目標として位置づけている。

→【田中会長】

・今回の計画で関係人口を指標としているが、私の知る限りでは関係人口に関するデータはないと認識している。関係人口を指標とするならば、吉田町独自で関係人口に対する調査が必要となる。

→【事務局】

・関係人口・交流人口の拡大に関する要素としては、P.5の「吉田カムカム補助金」によって開催される大規模イベントへの来場者をカウントしている。もう1点として、「ふるさとよしだ寄附金受入れ金額」をK P Iとして設定しているが、寄附者を関係人口としてカウントしている。

● 【〇〇委員】

・指標は加えたり変えたりできるものなのか。次期総合戦略のK P Iについて、一覧表はないか。

→【田中会長】

・骨子案なので加えたり変えたりすることは可能。

→【〇〇委員】

・P.10基本目標5・施策2の「誰もが健やかにいきいきと暮らせるまちづくりの推進」という項目について、高齢者に関するK P Iが多い。主な取組の中には、健康や障害者・障害児に関する内容も記載されているので、K P Iとしても設定した方がいいのではないか。

→【事務局】

・ご指摘のとおり、K P Iの内容が偏っていると感じる。健康や障害者・障害児に関する内容も含めて、事務局でK P Iの設定について検討させていただき、再度委員の皆様にお示しさせていただいてもよろしいか。

→【田中会長】

・それは問題ない。

→【事務局】

・K P Iの設定については、第6次吉田町総合計画と整合性を図るため、すべての実施計画事業から検討している。

→【田中会長】

・総合計画を策定する時に想定していなかった内容はどうするのか。新しい計画を策定するなら最初からしっかりした検討が必要。少し変えるだけなら、現行計画の改訂で問題ないと思う。今回は新しい計画の策定を選択しているので、総合計画に沿った形でなく、総合戦略のK P Iとして検討す

る必要がある。

● 【〇〇委員】

- ・総合計画が町の最上位計画だと認識している。第6次吉田町総合計画は、2024年度から2031年度までの8年間の計画で、2024年度から2027年度までの4年間を前期基本計画、2028年度から2031年度までを後期基本計画としている。一方、今回策定する総合戦略については、2025年度から2028年度の4年間を計画期間としており、最後の1年については総合計画の後期基本計画が始まっている。第6次総合計画前期基本計画と次期総合戦略の最終年度を2027年度に合わせた方がいいのではないかな。
- ・また、総合計画、総合戦略それぞれにいくつも指標があるので、1つにしていけないのか。

→ 【事務局】

- ・計画の年数については、第6次総合計画前期基本計画と関連性を持たせるということで4年間としている。特に総合戦略については、総合計画の重点プロジェクトを位置づけている。前期基本計画の4年間で達成できるものと、後期基本計画でも引き続き実施していくものがある。
- ・国では、基本的に総合計画と総合戦略を別々で策定することが望ましいとしているが、総合計画と総合戦略が目指している姿が同じであれば、一体で策定してもいいとなっている。静岡県や県内の他市町においても、総合計画と総合戦略を一体的に策定している。第6次総合計画が今年度からスタートし、総合戦略と別々に策定しているが、後期基本計画を策定するタイミングで総合戦略を1年前倒しで終了して総合計画と一体的にすることも考えられる。

→ 【田中会長】

- ・総合計画は策定する必要はあるが、総合戦略は策定しなくてもいいのではないかな。総合戦略で実施しようとしている内容は、総合計画で網羅できているのではないかな。

→ 【事務局】

- ・国では、総合計画と総合戦略を一体的に策定してもよいと言っているので、今後は一体的に策定できればと考えている。

→ 【田中会長】

- ・総合計画は5年、10年という長期的な視点で策定している。総合戦略は人口減少等の影響から地方創生として、3年程度の短期間で集中的に効果が上がる取組を行う目的で始まっている。何年も継続していくうちに、総合計画と総合戦略の区別がつかなくなっている。本来、総合戦略は短期間で成果が上がる内容をKPIとして設定することが望ましい。事務局が示している総合戦略の内容は、長期間でないと結果がわからないものが数値目標として設定されている。

→ 【事務局】

- ・数値目標としては長期的に目指していきたいと考えており、KPIについては毎年評価を行い、事業を進めていきたいと考えている。

● 【田中会長】

- ・他の自治体で総合計画と総合戦略を一体的に策定し、成功している事例はあるか。

→ 【吉良オブザーバー】

- ・どこの自治体でも、最上位計画として総合計画を策定している。一方で総合戦略については、国が

長期人口ビジョンを自治体に示し、その目標に向かって地方版総合戦略を策定するようになった。策定した自治体には、国から地方創生推進交付金による財政支援を受けられる。総合戦略は、防災、雇用、くらし環境、まちづくり等と施策が幅広いため、総合計画と総合戦略を一体的に策定する自治体は増えている。吉田町が総合計画と総合戦略を進めていく中で、お互いの計画の中で評価を行うのであれば、必ずしも一体的に策定するのではなく、連動していく形でも問題ないと思う。

→【田中会長】

- ・計画を新しく策定しなくても、内容を踏まえて評価し、運用する方法もある。

以上